

第3回江南市公共施設再配置計画検討委員会議事録（概要）

●日時 平成29年8月4日（金）午前9時30分～午前11時15分

●場所 江南市役所 防災センター 研修室1

●委員 出席委員7名

《委員長》 高橋 政稔

《副委員長》 恒川 和久

早川 徹也、村瀬 真奈美、山 登志浩、

大西 信二、藤山 理江

●傍聴者数 なし

●資料

資料1 公共施設再配置の基本方針

（参考資料1）第6次江南市総合計画基本構想、基本計画、策定経過等

資料2 総合評価（適正化方策）

資料3 縮減効果の試算

資料4 今後の公共施設のあり方に関するアンケート調査結果

（参考資料2）策定経過及び今後の予定

●議題

1 公共施設再配置の基本方針等の確認について

2 公共施設再配置の具体的取組、実施手法の検討について

■開会

議題1 公共施設再配置の基本方針等の確認について

（委員長） 事務局、説明をお願いします。

（事務局） ～資料1について説明～

（委員長） ご質問があればお願いします。

（委員） 公共施設の再配置の基本方針には、「行政サービスの機能性を高めるまちづくり（集約化・効率化など）」とあるが、例えば、「市の財源と行政サービスの内容を考慮したまちづくり」など、身の丈に合ったところが必要というところを表現したほうが分かりやすいのではないか。

（事務局） 検討する。

（委員） 基本方針や基本的な考え方が並び過ぎではないか。内容的には問題ないと思うが、もう少しコンパクトにまとめられないか。

（事務局） 分かりやすく修正する。

（委員） コンパクト・プラス・ネットワークと立地適正化計画について教えてほしい。

- (事務局) コンパクト・プラス・ネットワークとは、人口減少・少子高齢化に対応するため、生活利便施設がまとまったエリアを公共交通機関でネットワーク化するという国が推奨している考え方のことで、現在策定中の第6次江南市総合計画では、中心拠点に江南駅周辺及び布袋駅周辺、地域拠点に江南厚生病院周辺と江南団地周辺を位置付け、それら拠点を名鉄電車、名鉄バス、いこまいCARでネットワーク化しようと考えている。立地適正化計画は、この考えを取り入れた効率的なまちづくりをめざしてくための指針となる計画のことであり、今後策定予定である。
- (委員) 公共施設の再配置の基本方針②に「必要とされる行政サービスを適確に把握する」とあるが、市民それぞれ捉え方が違うと思うので、行政サービスとは何か定義付けてはどうか。
- (事務局) 様々な市民からの要望に応えることを総じて行政サービスと捉えている。要望は多種多様化しており、すべてに対応することは不可能だが、必要だと判断されるものについては小さな声でも応えていくものである。
- (委員) 基本的には、民間ではできないことを提供するのが行政サービスではないか。行政が多くての要望に応えるには限界がある。行政サービスの定義付けがあった方が、各施設について議論しやすい。
- (委員) 今の話に関連して、市長の戦略政策に「市民協働による柔軟性の高い地方行政を実現する」とあるが、財政が非常に厳しく立ち行かなくなっているから、「市民協働」や「民間の活用」により、財政をスリム化しなければいけないということが実際には背景にある。スリム化するために、もう少し具体的に公共施設では何ができるのかを示していくことが大事ではないか。
- (事務局) 総合計画の中でも、市民協働や民間活力の活用についてのキーワードがあるため、整理させていただく。

議題2 公共施設再配置の具体的取組、実施手法の検討について

- (委員長) 事務局、説明をお願いします。
- (事務局) ～資料2、3について説明～
- (委員長) ご質問があればお願いします。
- (委員) 計画期間を1期から4期まで分けているが、資料3の縮減効果の試算では、4期が終了した時点での縮減率を示しているのか。
- (事務局) はい。最初の10年間で何%達成といった細かな区分けをした数値は算出していない。

- (委員) パターン1、パターン2、パターン3になるにつれ、積極的に施設再配置に取り組んでいくイメージだと思うが、資料2で黒丸や白丸で示されているのはどのパターンなのか。
- (事務局) パターン2とリンクしている。
なお、例えば支所について、資料2では「今後支所のあり方について検討し、統廃合や複合化を実施します」と記載しているため、検討の結果、何もできない場合もあり得ると考え、パターン1では保留、パターン2では複合化、パターン3では廃止といった具合にパターン1からパターン3までで差がついてある。
- (委員) 資料3の「積み残し分のうち」、というところが良く分からない。
- (事務局) 総合管理計画に沿って予防保全型維持管理を図ったわけではないが、既に改修に投資した分を、予防保全維持管理をしたものとみなし、縮減効果に加えている。
- (委員) 縮減額はパターン1で218.2億円、パターン3で294億円と差が大きい。この差は、大きな施設に手をつけられるかどうかではないか。
- (事務局) すいとぴあ江南の縮減額は、パターン2の複合化で6.8億円、パターン3の廃止で51.1億円と、約45億円の差が生まれている。全施設の合計では、パターン2と3に約60億円の差が出るが、そのうちの約45億円はすいとぴあ江南が占めているため、廃止してしまえば、パターン3を達成する形になる。
- (委員) 小さな公民館や学童保育所を廃止したり、民間譲渡したりしても、結局は何千万円程度の縮減額である。45億円変わってくるのなら、すいとぴあ江南のあり方について、議論しなければいけないと思う。しかし、資料2の適正化方策では、長期的な取り組みの所に、あり方を検討するとの記載にとどまり、廃止や民間譲渡といった踏み込んだ書き方はしていない。あり方を見直すということが廃止だと思うが、廃止と直接記載しないのか。
- (委員) 適正化方策はパターン2で表現してあるとのことだが、そもそもパターン3で初めて縮減目標を達成するのであれば、パターン3をベースにしないとおかしいのではないか。
また、すいとぴあ江南の取り組みを2期から4期の30年間のうち、いつ行うかで実際の縮減額は変わってくると思う。前回の委員会でも言ったが、1期の長さが10年というのは長い。10年単位でやっていけばこうだが、5年単位で検証すればもっと違う削減額が出てくるはずである。選ばれ続ける江南という基本的なコンセプトがあるのなら、その観点から宿泊施設の必要性

について考えられないか。金額ベースだけでは、コストカットばかりで全ての施設が不要となってしまう。

(委員)

市としてはパターン3にしたいのか。

(事務局)

パターン3ありきではなく、パターン1から3を示し、この場で議論していただいたうえで、パターン3の取り組みを計画には記載したいと考えている。

今年度末に策定完了した再配置計画に、例えばすいとぴあ江南を廃止するという記載がされていれば、来年度からはそれに実効性を持たせるため、所管課を含めた庁内会議を組織し、その時期や方法について詰めていきたいと考えている。

5年単位での検証というのも、より分かりやすいかもしれない。検討させていただきたい。

(委員)

適正化方策の時期は耐用年数と大体一致している。これでは、結局耐用年数まで放っておくことと同じではないか。対応できるものは早く取り組もうという姿勢があまり見えてこない。

(事務局)

財政的に厳しい中での今後の方向性は、非常に重要だと考えている。再度しっかり検討させていただきたい。

(委員)

例えば、保育園の統廃合や、小学校の水泳授業の民間プールの活用など、具体的にどの施設を実施するか計画には記載していくのか。

(事務局)

具体的に検討を進めているものとしては、布袋駅東複合公共施設へ機能移転する保健センターは除却を考えている。市内に2つある給食センターは、既に耐用年数を過ぎていること、アレルギー対応が求められていることがあり、それを実現するためには現状の給食センターでは不可能なため、統合の上、新設できないかと考えている。

また、古知野北小学校区への学童保育所建設の検討の中で、古知野北小学校や古知野北公民館などと複合化できないかも考えている。これらは具体的に記載できると思う。

(委員)

保育園は待機児童ゼロを維持しており、江南市の強みである。単に保育園は効率的・効果的に廃止していこうではなく、待機児童ゼロを維持するため、各地域に保育園があるところを強みとしてPRしていくことも大切だと思う。資料では、全部スクラップしていくように見える。しかし、完全に実行できるかが疑問。せっかく江南ブランドの創造・発信という市長の戦略政策のビジョンがあるのだから、各施設との結び付きもしっかり書き込んでいかないといけない。

(事務局)

市長の戦略政策と絡めた表現となるよう工夫させていただく。

- (委員) 学校の余裕教室の活用策について、余裕教室があるから学童を設けているわけではない。小学校の中で学童保育を実施したほうが効率的という意味での余裕教室の活用ではないか。では学校に余裕教室はそんなにあるのか。
- (事務局) 空いている教室はある。ただ、そもそも使っていない教室を、空き教室と言うか、余裕教室と言うかといった問題がある。教育委員会は、余裕教室という言葉を使う。
- (委員) 空き教室と余裕教室はどう違うのか。
- (事務局) 一時的に使われていない教室のことを空き教室と言うが、将来にわたって恒久的に使用しないと見込まれる教室のことを余裕教室と言う。
- (委員) 放課後子ども教室を実施している小学校7校のうち教室を専用で使っているのは藤里小学校だけのため、藤里小学校は施設に余裕があると思うが、カリキュラムの変更に伴って、コンピュータ室ができ、総合学習が始まって多目的教室もできた。算数の授業は少人数教育で実施するため、教室がたくさん必要となった。学校全体を見ると、教室の使い方が変わっているため、余裕教室はなかなか生まれにくい。資料には余裕教室の活用とあるが、実際は難しいと思う。
- また、あまり学校にいろんな機能を入れてしまうと駐車スペースが足りなくなり使いづらくなることもある。
- (事務局) 子どもの数が以前に比べて少なくなっているのに教室数が変わっていないので、教室には余裕があると考えている。
- (委員) 子育てしやすいまちをめざすと転入者が増えると思う。昔、ナビタウン江南ができたときに、布袋小学校の学級数が急増した。そういうことがあるので、使っていない教室があるからといって、小学校に何か施設を入れてしまうのは危険な気がする。
- また、子育て支援施設を充実させるだけでは、子ども達が大人になった時に江南市から離れてしまうのではないかと。私の子どもは市内の保育園や小学校を卒業したが、今は住んでいない。就職を機に出て行ってしまった。子ども達の10年、20年先もしっかり考えていかなければならない。
- (事務局) 江南市はアパートが多く、一時的には人が増えるが、外に出ていかれてしまう可能性もある。江南市に定住していただくため様々な施策を練っている。
- (委員) 文部科学省の調査によると、複合化した小中学校は全体の35%に上るとある。江南市はどの程度か。
- (事務局) 小中学校の3分の1を学童保育所と複合化している。

- (委員) 廃止や移転との記載箇所があるが、元の施設はどうするのか。例えば売却できれば、収入が生まれる。それは見込んでいるのか。
- (事務局) 売却益の試算ができていないため、見込んでいない。
- (委員) 削減することは必要だが、どうやって民間を活用したら利益を得られるか、使用料を上げるということも含めて収支をトータルで考えないといけない。神奈川県秦野市では、市役所にコンビニ、公民館に郵便局が入ることにより収入が増え、なおかつ行政の仕事の一部を委託することにより業務が効率化できたとの事例がある。民間を活用すると書いてあるが、収入部分の試算が何もない。確かに売却益がいくら出るか試算するのは難しいという側面はあるが、そこを考えないとマイナス面ばかりが目立ってしまう。
- (事務局) もう少しプラス材料も見つけ、書き込めるところを工夫させていただきたい。
- (委員) 学校は50年近く経過して、大規模改修という話になってくると思うが、教育委員会では何か検討しているのか。
- (事務局) 小中学校について耐震化は終わっているため、方針としては国の補助がつけば大規模改修をやっていく。しかし、国に申請してもなかなか補助がつかず、大規模改修はあまり進んでいないのが現状である。
- (委員) 学校は、法定耐用年数に間もなく達するところばかりである。今の話を聞くと、適正化方策には、第1期に15校全ての長寿命化・複合化等に取り組むとあるが、本当にこの10年間で全て実施できるのか。また、子育てに力を入れようとしているにもかかわらず、老朽化した学校を建て替えないで大規模改修だけで良いのかも疑問である。国の補助を使って、いっそ建て替えるという方法もあるのではないか。先ほどの余裕教室についての話もそうだが、公共施設の大部分を占める学校をどのように使っていくかがすごく大事なことだと思う。
- (事務局) 全国的に、まだ耐震化が終わっていない学校が多く、そちらのほうに補助がつきやすいため、大規模改修や建て替えの補助がつかないのが現状。現在は比較的補助のつきやすいトイレの改修計画を立てている。
- (委員) この10年でやるのがトイレ改修だけなら、大規模改修とは言えないし、今後40年でトイレ改修しかやらないというのはあり得ないと思う。この10年ではなく、40年トータルで優先順位をつけて、建て替えや大規模改修を具体的に考えないといけない。

- (委員長) ただトイレは大事である。トイレの整備も学校教育の一環だと思う。
- (委員) 江南駅前のトイレは利用者も多いが、ほとんどの人が市の所有物だということを知らない。今江南駅を改修しており、1階にコンビニ、2階に居酒屋が入るらしく、トイレが必要になってくる。それなら、なぜ名鉄と一緒にいいトイレにしようとアプローチしないのか。あれは江南市の土地なのだから、もう少しやりようがあるのではないか。市が立派なトイレを作れば、住み良いまちをPRしやすいのではないか。
- (事務局) あそこは名鉄の土地だったと思う。何年か前に改修したが、線路が走っているので大変だったという記憶がある。一度担当と話をさせていただく。
- (委員) 市長部局と教育委員会は一応独立した形になっているが、学校が市の所有物であることは間違いないので、市としての統一的な見解を出さないと、なかなか話が進まない。余裕教室があると言って市長部局は使いたいのだが、教育委員会は消極的であるように感じる。
- (事務局) 藤里小学校は、1,000人以上の児童がいたが、現在は300人程度である。700人から800人の子どもが減っているため、空いている教室はあると思うが、学校ごとに検証していかないと、いくつ実際に空いている教室があるのか分からない。
- (委員) 藤里小学校は特殊である。江南団地の建設により、昔は子どもの数が多かったが、団地住民の極端な少子高齢化により、大幅に子どもの数が減ってしまった背景があり、新たな使い方をしても使い切れないことが理由で空いている教室があるだけだと思う。他の学校はそうではない。学校側としては、空いていたら何かしらに使うので、空いている教室は多分ないのではないか。
- (委員) 1,000人用に作ったものを300人で使っているのだから、うまく使ってもらわなければいけないというのは行政側としては当然あると思う。
- (委員) 児童数が300人になったのは藤里小学校だけで、他の小学校はそんなに減っていない。
- (委員) クラス数が減っているかどうかは分からないが、児童数は他も減っていることは事実である。多くの自治体で、学校側は使っていると言っているが、調べてみると週に1回しか使っていない教室がいくつもあるという実態はある。そこを上手く使うのがこの施設の再配置に関わる。

- (委員) 授業に使う普通教室は別として、学校の稼働率は低いのではないかと。このため、上手く使いこなしていくという視点が大切だと思う。ただし、余裕教室の活用や複合化をすると、いろいろな人が出入りするため防犯の問題にも関わる。運営は学校の職員がしているため、そうなると、どうしても学校は構えてしまうわけである。市長部局として学校の運営に関与できるような仕組みもぜひ考えてもらいたい。
- (委員長) 縦割りでやっていたら何も進んでいかないと思う。教育委員会と上手く連携しなければならない。
- (委員) 公営住宅について、低額所得者に対して低廉な家賃で提供しセーフティネットとしての役割を担うことから公共性は高いと書かれているが、これからどんどん賃金格差が出てくるだろうし、高齢化で年金も減るということで、低額所得者はこれから増えていくだろう。今後低所得者が増えたら、ますます公共性が高くなるか心配である。本当に市が公営住宅を所有する必要があるのか、例えば民間賃貸住宅を借り上げた場合とのコストの比較などを踏まえて方針を打ち出さないといけない。
- (事務局) 公営住宅の戸数を増やすことはないと思う。民間賃貸住宅の活用については考える必要がある。
- (委員) 全体的に関わる話だが、この資料の各施設の適正化方策は、担当する部とのコンセンサスは取っているのか。
- (事務局) 取っている。

■ 報告

- (委員長) 事務局、説明をお願いします。
- (事務局) ～資料4について説明～
- (委員長) ご質問があればお願いします。
- (委員) アンケート、ワークショップ、シンポジウム、パブリックコメントの結果は、計画にどんな形で反映していくのか。結局市民はワークショップにしても何にしても、自分たちの声がどう反映され、どうなっていくのかが見えていないと思う。こどもフェスティバルで実施したアンケートの結果も今後どう活用するかがよく分からない。
- (委員) ワークショップは手間がかかるし、市民もそれなりに議論していただける場のため、その結果は計画にぜひ反映すべきだと思う。ただし、次回の検討委員会はパブリックコメントが終わった2月にある。これでは、この委員会では、ワークショップやアンケートの結果をどのように反映したのか全く知らされない

まま計画書が完成するというプロセスである。それはおかしい
のではないか。

- (事務局) 検討委員会の開催時期や回数については検討させていただく。
(委員) 発言した意見が資料には反映されていないように感じる。
これでは、この委員会での検討は何なのかと思う。
(委員長) この委員会での意見もしっかり反映するように努めてほしい。
(事務局) 反映するよう努める。

■その他

- (委員長) 他に何かありますか。
(委員) ワークショップの申込状況を教えてほしい。
(事務局) 今日現在では2か所で16人である。引き続き募集中である。
(委員) 当日はどのように進めるのか。
(事務局) 再配置計画策定支援業務の受託業者である玉野総合コンサルタントと協力して実施する。

以上